



VSC、VASA Provider、 SRA仮想アプライアンスを導入するための要件

VSC, VASA Provider, and SRA 9.7

NetApp
March 21, 2024

目次

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを導入するための要件	1
VSC のポート要件	1
VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスのスペースとサイズの要件	2
VSC、VASA Provider、 SRA仮想アプライアンスでサポートされるストレージシステム、ライセンス、およびアプリケーション ..	2
VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを導入する際の考慮事項と要件	3

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを導入するための要件

Virtual Storage Console (VSC)、VASA Provider、Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンスを導入する前に、導入要件を確認し、実行するタスクを決めておく必要があります。タスクに基づいて、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの導入モデルを選択できます。

VSC のポート要件

(VSC) は、ストレージシステムとVMware vCenter Serverなど、コンポーネント間の通信に指定のポートをデフォルトで使用します。ファイアウォールを有効にしている場合は、例外を許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。

Windows 以外のファイアウォールについては、VSC で使用する特定のポートへのアクセスを手動で許可する必要があります。これらのポートへのアクセスを許可しないと、次のようなエラーメッセージが表示されます。

_ サーバと通信できません

VSC で使用されるデフォルトの双方向 TCP ポートは次のとおりです。

デフォルトのポート番号	説明
9083 年	有効にすると、VASA Provider と Storage Replication Adapter (SRA) の両方がこのポートを使用して vCenter Server と通信します。このポートは TCP/IP 設定を取得するためにも必要です。
443	クレデンシャルの設定方法によっては、VMware vCenter Server とストレージシステムがこのポートでセキュアな通信をリスンします。
8143	VSC は、このポートでセキュアな通信をリスンします。
7.	エコー要求が ONTAP に送信されて到達可能性が検証されます。この要求はストレージシステムの追加時にのみ必要であり、あとで無効にすることができます。

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを導入する前に、Internet Control Message Protocol (ICMP) を有効にしておく必要があります。



ICMPが無効になっていると、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの初期設定が失敗し、導入後にVSCがVSCサービスとVASA Providerサービスを開始できなくなります。導入後に、VSC サービスと VASA Provider サービスを手動で有効にする必要があります。

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスのスペースとサイズの要件

Virtual Storage Console (VSC)、VASA Provider、Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンスを導入する前に、導入パッケージのスペース要件とホストシステムの基本的な要件を理解しておく必要があります。

- * インストールパッケージのスペース要件 *
 - シンプロビジョニングの場合は 2.1GB
 - シックプロビジョニングの場合は 54.0GB
- * ホスト・システムのサイジング要件 *
 - ESXi 6.5U2以降
 - 推奨メモリ： 12GB RAM
 - 推奨 CPU 数： 2

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスでサポートされるストレージシステム、ライセンス、およびアプリケーション

Virtual Storage Console (VSC)、VASA Provider、Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンスの導入を開始する前に、ストレージシステムの基本要件、アプリケーション要件、およびライセンス要件について理解しておく必要があります。

サポートされるONTAP、vCenter Server、ESXiホスト、プラグインアプリケーション、およびSite Recovery Manager (SRM) のバージョンの最新情報については、(IMT) を参照してください。

- ["Interoperability Matrix Tool : VSC 9.7.1"](#)
- ["Interoperability Matrix Tool : VASA Provider 9.7.1"](#)
- ["Interoperability Matrix Tool : SRA 9.7.1"](#)

VMware Virtual Volumes (vVol) データストアに対して仮想マシンの Snapshot 処理とクローン処理を実行するためには、FlexClone ライセンスを有効にする必要があります。

Storage Replication Adapter (SRA) には次のライセンスが必要です。

- SnapMirror ライセンス

SRA のフェイルオーバー処理を実行するためには、SnapMirror ライセンスを有効にする必要があります。

- FlexClone ライセンス

SRA のテストフェイルオーバー処理を実行するためには、FlexClone ライセンスを有効にする必要があります。

データストアの IOPS を表示するには、Storage I/O Control を有効にするか、Storage I/O Control の設定でストレージ I/O 統計の収集を無効にするチェックボックスをオフにする必要があります。Storage I/O Control は、VMware の Enterprise Plus ライセンスがある場合にのみ有効にできます。

- ["VMwareの技術情報アーティクル1022091：「Troubleshooting Storage I/O Control」](#)
- ["VMware vSphereのドキュメント：「Storage I/O Control Requirements」](#)

VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを導入する際の考慮事項と要件

Virtual Storage Console (VSC)、VASA Provider、Storage Replication Adapter (SRA) 仮想アプライアンスを導入する前に、導入計画を作成し、VSC、VASA Provider、およびSRAを環境にどのように設定するかを決めておくことを推奨します。

次の表に、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを導入する前に検討が必要な事項について、その概要を示します。

考慮事項	説明
VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの初回導入	<p>VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの導入時に、VSCの機能が自動的にインストールされます。 "VSC、VASA Provider、SRAを導入またはアップグレードする"</p> <p>"VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの新規ユーザ向けの導入ワークフロー"</p>

考慮事項	説明
VSC の既存の導入環境からアップグレードする	<p>VSCの既存の導入環境からVSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスへのアップグレード手順は、VSCのバージョン、およびVSC、VASA Provider、SRAの導入状況によって異なります。詳細については、導入ワークフローとアップグレードに関するセクションを参照してください。 "VSC、VASA Provider、SRAの既存ユーザ向けの導入ワークフロー"</p> <p>アップグレード前に実施しておくべき作業：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用しているストレージシステムとそのクレデンシャルに関する情報を記録しておく必要があります。 <p>アップグレード後に、すべてのストレージシステムが自動的に検出され、正しいクレデンシャルが付与されていることを確認する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 標準の VSC ロールに変更を加えた場合、変更を保存するにはそのロールをコピーする必要があります。 <p>標準のロールは、VSC サービスを再起動するたびに現在のデフォルトで上書きされます。</p>
VSC の SSL 証明書の再生成	<p>SSL証明書は、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスの導入時に自動的に生成されます。サイト専用の証明書を作成するには、SSL 証明書の再生成が必要になることがあります。 "のSSL証明書を再生成します"</p>
ESXi サーバの値を設定しています	<p>ESXi サーバの値のほとんどはデフォルトで設定されますが、値を検証しておくことを推奨します。これらの値は、内部テストに基づいています。環境によっては、パフォーマンスを向上させるために値を変更しなければならない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • "ESXi サーバのマルチパスとタイムアウトを設定" • "Virtual Storage Console for VMware vSphereを使用して設定されるESXiホストの値"
ゲストオペレーティングシステムのタイムアウト値	<p>ゲストオペレーティングシステム（ゲスト OS）のタイムアウトスクリプトは、フェイルオーバーが適切に動作するように、サポートされている Linux、Solaris、Windows の各ゲストオペレーティングシステムの SCSI I/O タイムアウト値を設定します。</p>

次の表に、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスを設定する際に必要な事項について、その概要を

示します。

考慮事項	説明
Role-Based Access Control （RBAC ; ロールベースアクセス制御）の要件	<p>VSC は、vCenter Server RBAC と ONTAP RBAC の両方をサポートしています。VSCをvCenter Serverに登録するために使用するアカウント（`https://<apply_ip>:8143/Register_html`を使用）は、vCenter Server管理者（vCenter Serverの管理者ロールまたは管理者ロールに割り当てられている）である必要があります。管理者として VSC を実行する場合は、すべてのタスクに必要なアクセス許可と権限がすべて付与されている必要があります。</p> <p>vSphere オブジェクトへのアクセスを制限する必要がある場合、vCenter Server の要件に一致する標準の VSC ロールを作成してユーザに割り当てることができます。</p> <p>ONTAP System Managerで、VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスに付属のJSONファイルを使用して、推奨されるONTAP ロールを作成できます。</p> <p>適切な権限とアクセス許可を持たないユーザがタスクを実行しようとした場合、そのタスクのオプションはグレー表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• "VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスに組み込みの標準ロール"• "VSC for VMware vSphere使用時に推奨されるONTAP ロール"
ONTAP バージョン	ストレージシステムでONTAP 9.1、9.3、9.5、9.6、または9.7が実行されている必要があります。
ストレージ機能プロファイル	<p>ストレージ機能プロファイルを使用する場合やアラームを設定する場合は、VASA Provider for ONTAP を有効にする必要があります。VASA Provider を有効にすると、VMware Virtual Volumes（VVol）データストアを設定できるようになり、ストレージ機能プロファイルやアラームの作成と管理も可能になります。</p> <p>ボリュームやアグリゲートの容量が残り少なくなったときや、データストアが関連付けられているストレージ機能プロファイルに準拠しなくなったときに、アラームによって警告されます。</p>

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。